

## 1.需給動向

### 1-1.世界の需給動向

カリウムは植物の成長において重要な元素の一つであり、土壌に含まれている。現代の農業では高収穫を実現するため、リン、窒素とともに複合肥料の3大成分の一つとして、人工的に土壌に補給することが多い。そのため、世界のカリウム消費量のおよそ90%以上がこの肥料用需要であると言われている。肥料用には、塩化カリウム(MOP)と硫酸カリウム(SOP)、カリウム硝酸塩などを原料として用いている。

肥料量に比べ使用量は多くないものの、カリウムは工業用素材としても重要な元素である。硫酸カリウムは、工業用では金属処理、ガラスの製造などに使われている。カリウムは人体においても不可欠な電解質で、硫酸カリウムの形態で医薬品の原料に使用されている。その他、カリウム炭酸塩は液体石鹼やガラスなどの原料として、ナトリウムカリウム合金は、原子炉の冷却材の他、乾燥剤や反応剤などの原料として使用されている。また、カリウム蒸気、クロム酸カリウム、酢酸カリウムなどのカリウム化合物は、磁気センサー、光電子素子、染料、インク、花火、爆薬、火薬の酸化剤などに使用されている。近年では、カリウム硝酸塩を保存食の添加剤や防腐剤、歯磨剤、太陽熱発電の蓄熱媒体などの部門で使用しており、需要先が拡大している。

世界のカリウム生産量を表1-1、図1-1に示す。カリウム鉱石はカナダ、ロシア、ベラルーシ、中国、ドイツの上位5ヶ国で世界の80%を供給している。

カリウム鉱石の採掘は、地下や海底を900~1,500mほど掘削し、坑内掘り(ルームアンドピラー)やソリューションマイニングで行われる。露天掘りに比べ難易度が高く、大がかりな設備投資も必要であり、新規参入は難しい状況である。他方、イスラエルやヨルダンなど死海沿岸地域また中国の青海省や新疆ウイグル自治区の塩湖では、塩田からカリウムを生産している。

日本ではカリウムは産出されず、また海外権益も保有していない。カリウム鉱山は少数企業により寡占化されており、既存鉱山への資本参入が困難なことに加え、新たな鉱山開発は先述のように初期投資の問題から難しいためである。

カリウムの有力企業としては、ベラルーシのBelarusian Potash Company(以下BPC)、ロシアのUralkali、カナダのPotash Corp of Saskatchewan(以下Potach)、カナダCanpotex Ltd、豪州のBHP Billiton PLC(以下BHP)、ドイツK+S Aktiengesellschaft(以下K+S)などがある。このうち、ベラルーシのBPCとロシアのUralkaliの確執が2013年のカリウムの需給に大きく影響した。もともとBPCはベラルーシの国営企業であるRUE PA Belaruskali(以下、Belaruskali)とUralkaliの合併(出資比率 50:50)により2005年に設立された。その後、Uralkaliは2011年に競合するロシアのカリウムメーカーであるSilvintを買収。ロシアにはカリウム生産企業としてUralkaliとSilvintの2社があったが、これがUralkaliに統合されたことから、これ以降はロシア産のカリウムはBPCを輸出窓口とし(BPCはロシア産とベラルーシ産のカリウムを輸出)、BPCは世界カリウム市場の40%を占める最大手のポジションとなった。しかし、2013年に入るとUralkaliがBPCから脱退しカリウム事業を独自に展開し始めた。Uralkaliが脱退したことでBPCのカリウム取扱量が減少し、カナダのCanpotexがトップとなった。CanpotexはカナダのPotach、米国のThe Mosaic Company(以下Mosaic)、米国のAgrium Inc(以下Agrium)が合併で設立したカリウム輸出会社である。

新たな鉱山開発としては、ブラジルがSergipe州でカリウム鉱山開発を進めており、2016年以降に100万吨規模のカリウム生産を開始する予定である。このほか、BHPがカナダ中部のSaskatchewan州で年間800百万トンのカリウムを産出する大型開発計画であるJensenプロジェクトを進めていたが、Uralkaliの価格攻勢によりカリウム価格が下落したことなどから、計画は遅延している模様である。

表 1-1 世界のカリウム生産量

単位: マテリアル千t

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	構成比
カナダ	9,150	10,120	8,360	11,100	10,500	4,320	9,788	11,000	8,980	10,500	117%	27%
ロシア	5,000	5,500	5,720	6,600	6,730	3,730	6,280	6,500	5,470	5,300	97%	17%
ペラルーシ	4,300	4,800	4,605	4,970	4,970	2,490	5,250	5,500	4,760	4,900	103%	15%
中国	550	600	600	2,000	2,750	3,000	3,200	3,700	4,100	4,300	105%	13%
ドイツ	3,500	3,600	3,620	3,600	3,280	1,800	3,000	3,010	3,120	3,000	96%	10%
イスラエル	2,060	2,060	2,200	2,200	2,300	2,100	1,960	1,960	1,900	2,000	105%	6%
ヨルダン	1,230	1,230	1,036	1,090	1,220	683	1,200	1,380	1,090	1,200	110%	3%
チリ	360	370	450	500	559	692	800	980	1,050	1,100	105%	3%
米国	1,300	1,200	1,100	1,100	1,100	1,700	1,930	1,000	900	970	108%	3%
英国	600	600	480	427	427	427	427	427	470	470	100%	1%
スペイン	500	500	437	580	435	435	415	420	420	436	104%	1%
ブラジル	340	405	405	405	471	385	453	454	425	425	100%	1%
世界	28,890	30,985	29,013	34,572	34,742	21,762	34,703	36,331	32,700	34,600	106%	100%

出典: United States Geological Survey「Mineral Commodity Summaries POTASH」 World Mine Production

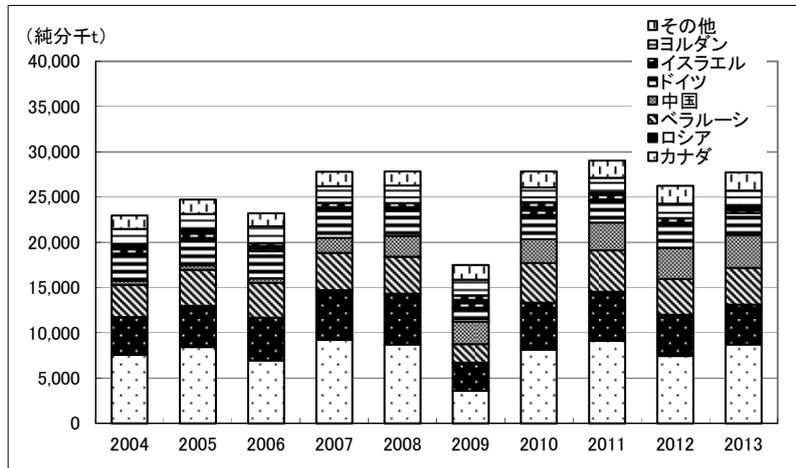


図 1-1 世界のカリウム生産量

## 1-2 国内の需給動向

カリウムの国内需給を表 1-2、図 1-2 に示す。日本へは大部分が塩化カリウムとして輸入され、そこから肥料用や工業用として使用される。肥料以外の用途としては、試薬、食品添加物(粉ミルク、減塩食品、防腐剤、調味料など)として使用される。輸入量の一部は水酸化カリウムの形態で輸入される。水酸化カリウムは塩化カリウムの水溶液を電気分解することで得られる。強い塩基性を持ち、この塩基性を利用して苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)や界面活性剤と合わせて液体洗浄剤(主に業務用製品)として使用されている。

肥料用では単肥、複合肥料となり、工業用は用途に合わせて不純物を取り除き、さらに様々な化合物と複合化されカリウム化合物となる。日本は 2013 年にマテリアル t で約 480 千 t の塩化カリウムを輸入しており、そのうち約 60%が肥料用、約 40%が工業用で使用される。

2013 年における国内のカリウム供給量は前年比 93%の 364.3t、需要量は前年比 101%の 251.1t であった。国内需要のうち肥料用が 246.2t と大部分を占める。

カリウム( $K_2O$ )は、窒素(N)、燐酸( $P_2O_5$ )、石灰( $CaO$ )、ケイ酸( $SiO_2$ )、苦土( $MgO$ )、マンガン( $MnO$ )、ホウ素( $B_2O_3$ )などと共に日本の肥料取締法施行令で定める肥料成分の一つである。肥料用カリウムには、塩化カリ(MOP)と硫酸カリ(SOP)、カリウム硝酸塩などがあるが、これらの製品は単肥ではなく、リンや他の肥料成分と合わせて複合肥料として使用されている。国内では近年、農業人口の縮小などから、肥料用カリウムの需要は減少する傾向にある。

一方、2013 年の国内需要における工業用カリウム需要は前年比 100%の 0.5t であった。工業用カリウムは

ナトリウムカリウム合金やカリウム蒸気、クロム酸カリウム、酢酸カリウムなどの化合物、あるいはカリウム硝酸塩などの形態で消費されている。

ナトリウムカリウム合金は金属光沢を持つ銀白色の液体で、カリウム含有量 44%と 78%の 2 種類がある。ナトリウムカリウム合金は、低融点合金として原子炉の冷却材などや、希ガスや溶媒に含まれる微量の二酸化炭素や水や酸素を高度に除去するための反応剤、乾燥剤として用いられている。また、カリウム化合物のうち、カリウム蒸気は数種類の磁気センサーや光電子素子に使用されている。クロム酸カリウムは、黄色の染料やインク、爆薬や花火、皮なめし剤、ハエ取り紙、安全マッチなど様々な用途で用いられている。カリウム硝酸塩は保存食の添加剤、防腐剤、歯磨剤、太陽熱発電の蓄熱媒体などに使用されている。そのほか、硫酸カリウムは金属処理やガラス製造、医薬品・食品添加剤の用途として、カリウム炭酸塩は液体石鹼としての需要が多く、ガラスの製造(表面処理)にも用いられている。

表 1-2 カリウムの国内需給

単位: 純分千t

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比
供給	肥料用 <sup>1)</sup>	88.9	78.9	49.0	64.0	106.8	82.5	40.0	40.8	41.2	41.6	101%
	工業用カリウム <sup>2)</sup>	2.7	3.4	2.6	2.2	3.5	3.7	3.3	3.2	3.9	3.1	80%
	工業用その他 <sup>3)</sup>	0.055	0.084	0.075	0.090	0.066	0.047	0.049	0.046	0.039	0.033	83%
	小計	91.7	82.3	51.7	66.2	110.3	86.2	43.4	44.1	45.2	44.8	99%
	輸入(素材・製品)	483.4	454.6	402.0	421.6	466.0	191.4	354.3	332.8	347.1	319.5	92%
合計		575.0	537.0	453.7	487.9	576.4	277.6	397.7	376.9	392.3	364.3	93%
需要	肥料用 <sup>1)</sup>	292.0	298.6	290.6	292.0	182.3	228.8	256.3	241.4	243.8	246.2	101%
	工業用 <sup>3)</sup>	0.9	0.9	0.9	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	100%
	小計	292.9	299.4	291.4	292.8	182.9	229.4	256.9	241.9	244.3	246.7	101%
	輸出(素材・製品)	5.5	5.1	5.2	5.7	5.9	3.9	5.2	4.2	4.6	4.4	97%
	合計	298.5	304.5	296.6	298.5	188.8	233.3	262.0	246.1	248.8	251.1	101%
供給-需要		276.5	232.4	157.1	189.4	387.6	44.3	135.6	130.8	143.5	113.2	79%

出典: 1) ポケット肥料要覧2013/2014(2012年と2013年の統計は推計値、肥料年度7月～翌6月)、

2) 経済産業省化学工業統計(暦年)、3) 無機薬品協会(年度)、4) 財務省貿易統計(暦年)

純分換算率: 水酸化カリウム70%

※素材は塩化カリウム、水酸化カリウム、硫酸カリウム、カリウム硝酸塩、カリウム炭酸塩、その他カリウム化合物、製品はカリ肥料による。

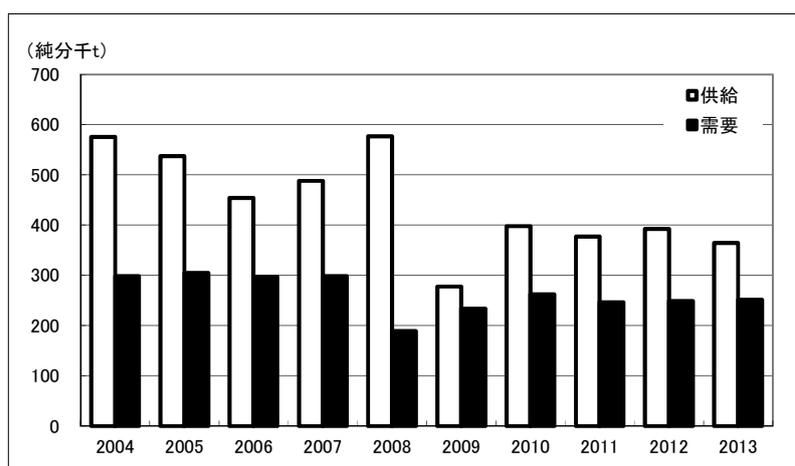


図 1-2 カリウムの国内需給

## 2.輸出入動向

### 2-1.輸出入動向

カリウムの輸出入量を表 2-1、図 2-1 に示す。2013 年におけるカリウム素材の輸入量は前年比 92%の 313.4 千 t であった。カリウム素材の内訳は、塩化カリウム 249.2 千 t、水酸化カリウム 15.7 千 t、硫酸カリウム 42.5 千 t、カリウム硝酸塩 2.17 千 t、カリウム炭酸塩 2.9 千 t、その他カリウム化合物 1.9 千 t である。一般的にカリウムの統計数量は K<sub>2</sub>O を基準としている。塩化カリウムの場合、K<sub>2</sub>O の含有量が 60%のもの、硫酸カリウムは 50%のものがスタンダード品となっている。

塩化カリウムの輸入量は前年比 91%と減少しているが、これは先述したように BPC からの Uralkali の脱退に際し、カリウムを日本に輸入している商社各社が市場の状況が落ち着くまで買い控えに出たためである。水酸化カリウムの輸入量は前年比 112%の成長となった。塩化カリウムの水溶液を電解して得られる水酸化カリウムは、生産に際しては大量に電力を消費するため、日本国内での電気代の値上がりに伴い、国内で塩化カリウムから水酸化カリウムを精製するよりもエネルギーコストが低い海外から輸入する方が安いという状況となったため、2013 年は輸入量が増える結果となった。硫酸カリウムは肥料用が中心であるが、一部工業用（金属処理、ガラス製造、食品添加剤など）にも使用される。肥料としては塩化カリウムをさらに精製したもので即効性が高く、たばこや茶葉など葉そのものの品質（色、つやなど）が重要な作物で多く使用される。葉物作物に使用されるため、濃度が高すぎても低すぎても肥料の効果が十分に出ない。そのため、純度のコントロールが品質に直結する。

輸出については、日本はカリウムの輸入国であり、輸出はサンプルや特別なケースなどごく一部の事例にとどまる。

表 2-1 カリウムの輸出入数量

		単位：純分千t											
		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	
素材	塩化カリウム	輸入	364.3	359.2	310.6	335.9	371.4	138.2	287.6	259.0	275.3	249.2	91%
		輸出	0.175	0.142	0.090	0.150	0.098	0.048	0.048	0.050	0.039	0.047	120%
	水酸化カリウム	輸入	12.0	10.7	5.4	6.3	8.6	12.0	12.2	15.4	14.0	15.7	112%
		輸出	2.7	2.4	2.6	2.8	2.5	1.8	2.4	2.0	2.4	2.3	95%
	硫酸カリウム	輸入	84.0	67.0	71.6	64.8	71.5	29.1	42.0	42.6	44.2	42.5	96%
		輸出	0.000	0.000	0.015	0.030	0.022	0.037	0.054	0.027	0.031	0.017	54%
	カリウム硝酸塩	輸入	2.52	2.76	3.15	3.23	2.47	1.21	2.94	2.91	2.74	2.17	79%
		輸出	0.17	0.39	0.39	0.50	0.54	0.48	0.49	0.52	0.77	0.44	58%
	カリウム炭酸塩	輸入	9.9	4.5	1.6	1.3	1.1	1.8	2.4	5.4	3.2	2.9	90%
		輸出	0.6	0.4	0.6	0.2	0.5	0.6	0.9	0.3	0.3	0.2	79%
その他カリウム化合物	輸入	1.8	1.6	1.7	2.1	1.9	1.3	2.2	1.8	1.9	1.9	102%	
	輸出	1.37	1.27	1.00	1.55	1.51	0.63	0.88	0.88	0.70	0.97	139%	
小計	輸入	474.5	446.0	394.0	413.7	456.9	183.7	349.4	327.1	341.3	313.4	92%	
	輸出	5.0	4.6	4.7	5.2	5.2	3.5	4.8	3.7	4.2	3.9	94%	
	輸入-輸出	469.5	441.4	389.3	408.5	451.7	180.2	344.7	323.4	337.2	309.5	92%	
製品	その他カリ肥料	輸入	3.7	3.2	2.6	2.8	3.2	2.3	1.9	1.8	1.4	2.0	146%
		輸出	0.0051	0.0001	0.0005	0.0007	0.0014	0.0000	0.0000	0.0038	0.0002	0.0072	36%
	複合肥料	輸入	5.13	5.48	5.39	5.20	5.95	5.42	3.02	3.85	4.45	4.14	93%
		輸出	0.50	0.57	0.53	0.53	0.62	0.32	0.40	0.46	0.38	0.46	122%
	小計	輸入	8.8	8.7	8.0	8.0	9.1	7.7	4.9	5.7	5.8	6.1	106%
		輸出	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.3	0.4	0.5	0.4	0.5	123%
輸入-輸出	8.3	8.1	7.5	7.4	8.5	7.4	4.5	5.2	5.4	5.7	104%		
合計	輸入	483.4	454.6	402.0	421.6	466.0	191.4	354.3	332.8	347.1	319.5	92%	
	輸出	5.54	5.12	5.20	5.70	5.86	3.85	5.16	4.19	4.55	4.40	97%	
	輸入-輸出	477.8	449.5	396.8	415.9	460.2	187.5	349.2	328.6	342.6	315.1	92%	

出典：財務省貿易統計

純分換算率：塩化カリウム52%、硫酸カリウム45%、カリ肥料5%、水酸化カリウム70%、カリウム硝酸塩39%、カリウム炭酸塩57%、その他カリウム化合物（過酸化カリウム71%、臭化カリウム33%、亜ホスホン酸カリ38%、過マンガン酸カリウム25%、ナトリウム又はカリウムのフルオロケイ酸塩28%、フルオロタンタル酸カリウム20%）

※素材は塩化カリウム、水酸化カリウム、硫酸カリウム、カリウム硝酸塩、カリウム炭酸塩、その他カリウム化合物（過酸化カリウム、臭化カリウム、亜ホスホン酸カリ、過マンガン酸カリウム、ナトリウム又はカリウムのフルオロケイ酸塩、フルオロタンタル酸カリウム）、製品はカリ肥料による。

※四捨五入により、各数値と合計値、前年比が合致しない場合がある。

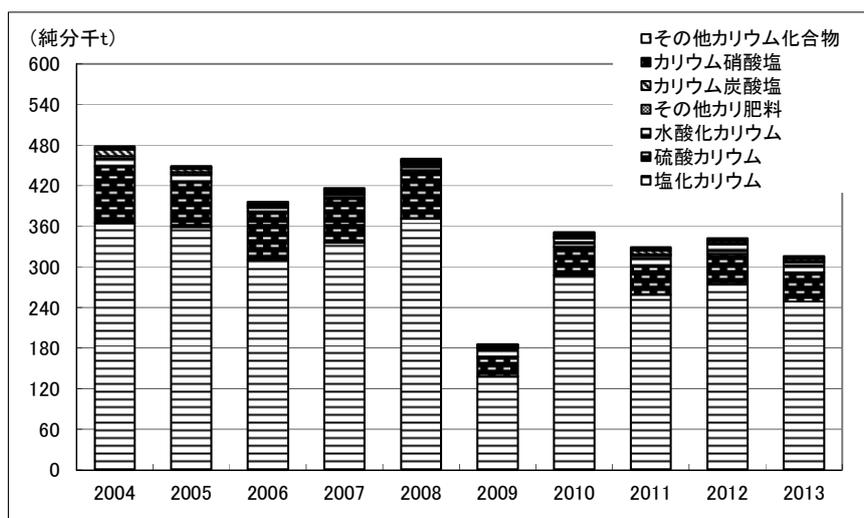


図 2-1 カリウムの輸入数量

## 2-2 輸出入相手国

### 2-2-1 塩化カリウム

塩化カリウムの輸入相手国を表 2-2、図 2-2 に示す。2013 年の主要相手国はカナダであり、輸入量の 69% を占める。ついでヨルダンが 9%、ベラルーシが 8%、ドイツが 5%、その他であった。輸入量が最も多いカナダについてはカリウム最大手メーカーである Canpotex からの供給がほとんどである。カナダからの輸入量は 2013 年に前年比 80%と大きく縮小し、その分、ヨルダンやベラルーシなど 2 位以下の輸入相手国が実績を伸ばしている。

表 2-2 塩化カリウムの輸入相手国

		単位: 純分千t										13/12比	構成比
		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013		
輸入	カナダ	215	260	195	238	292	114	220	196	214	172	80%	69%
	ヨルダン	20	16	22	15	16	14	22	20	18	24	135%	9%
	ベラルーシ	-	-	-	-	-	-	1	6	7	21	280%	8%
	ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13	836%	5%
	イスラエル	20	15	18	21	10	-	9	5	8	8	104%	3%
	ロシア	56	47	48	54	44	9	32	32	26	7	28%	3%
	米国	50	19	24	6	8	0	1	0	0	3	1,018%	1%
	その他	3	2	3	2	1	1	3	1	1	1	298%	1%
合計	364	359	311	336	371	138	288	259	275	249	91%	100%	

出典: 財務省貿易統計

純分換算率: 塩化カリウム52%

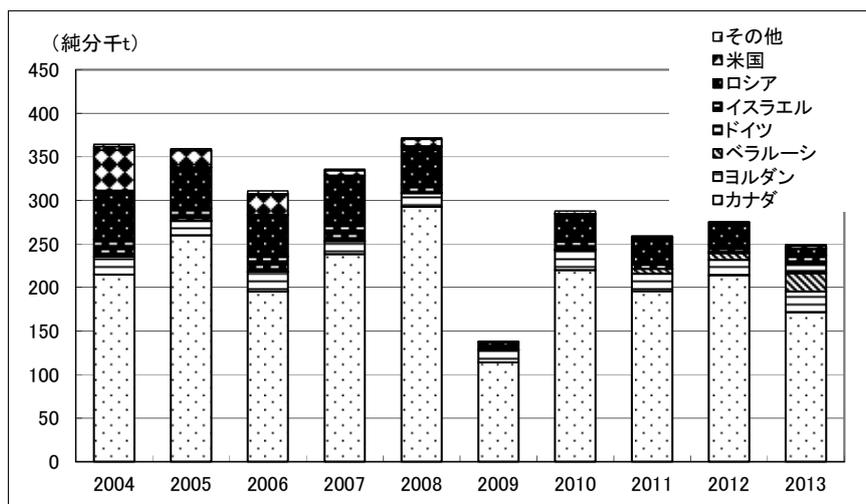


図 2-2 塩化カリウムの輸入相手国

### 2-2-2.水酸化カリウム

水酸化カリウムの輸入相手国を表 2-3、図 2-3 に示す。2013 年における水酸化カリウムの輸入量は前年比 112%の 15.7 千 t で、全体の 92%が韓国からの輸入で占められる。韓国は国策として業務用の電気料金を低く抑えており(日本円で 5~6 円/kwh 程度)、水酸化カリウムの製造コストが安い。さらに、地理的にも近いことから米国や欧州からの輸入に比べ輸送コストも低く抑えられ、ここ数年で韓国からの輸入が増えている。

表 2-3 水酸化カリウムの輸入相手国

単位: 純分千t

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	構成比
輸入	韓国	11.2	9.9	4.5	5.2	6.5	4.9	8.1	12.5	11.9	14.4	121%	92%
	米国	0.09	0.21	0.15	0.24	0.24	2.23	1.58	2.11	1.41	0.72	51%	5%
	スウェーデン	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	100%	2%
	その他	0.15	0.11	0.14	0.08	1.09	4.38	1.91	0.23	0.29	0.15	52%	1%
	合計	12.0	10.7	5.4	6.3	8.6	12.0	12.2	15.4	14.0	15.7	112%	100%

出典: 財務省貿易統計

純分換算率: 水酸化カリウム 70%

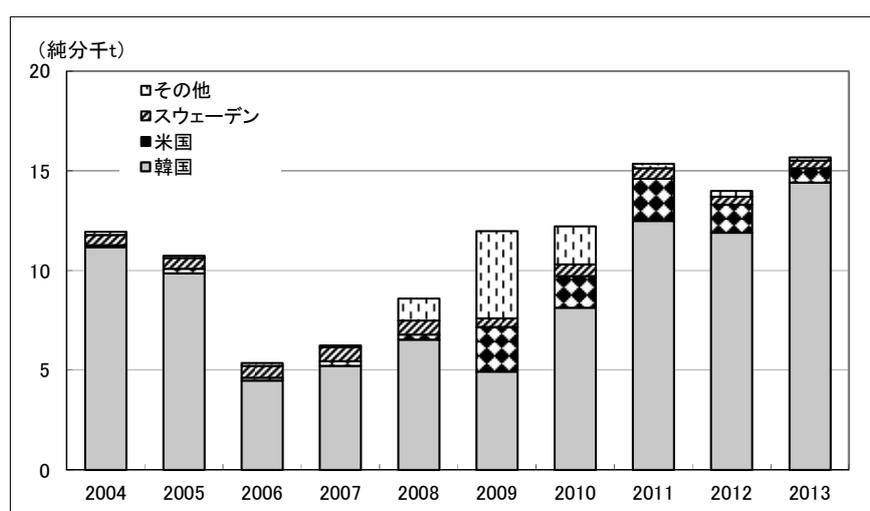


図 2-3 水酸化カリウムの輸入相手国

### 2-2-3.硫酸カリウム

硫酸カリウムの輸入相手国を表2-4、図2-4に示す。主要輸入相手国はドイツと台湾で、2013年の輸入量に占める構成比はドイツが42%、台湾が40%であった。両国ともにカリウムを精製するプロセスでの純度コントロールの技術力が高く、製品への信頼性が高シエアに繋がっている。また、2011年までは韓国もドイツとほぼ同程度の量を日本に輸出していたが、2012年に前年比半減、2013年には全体の9%程度までシェアを下げた。

表 2-4 硫酸カリウムの輸入相手国

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	単位:純分千t	
輸 入	ドイツ	25.65	4.34	14.73	11.68	13.57	6.53	8.79	10.85	11.40	17.92	13/12比	構成比
	台湾	7.5	8.1	7.7	7.3	10.0	7.2	8.1	10.4	12.3	16.8	136%	40%
	韓国	9.2	7.2	5.6	10.0	10.4	5.5	11.2	11.5	6.1	3.8	62%	9%
	ベルギー	13.679	9.227	8.637	4.139	11.228	2.013	0.001	1.134	0.468	1.937	414%	5%
	フィリピン	0.000	0.057	0.040	0.041	0.238	0.009	0.171	0.324	0.216	1.305	604%	3%
	中国	15.22	19.57	17.14	16.91	6.82	0.64	0.80	0.47	0.22	0.70	319%	2%
	その他	2.28	0.13	0.04	0.41	0.41	0.19	0.17	0.32	0.23	0.02	8%	0%
	合計	84.0	67.0	71.6	64.8	71.5	29.1	42.0	42.6	44.2	42.5	96%	100%

出典:財務省貿易統計、  
純分換算率:硫酸カリウム45%

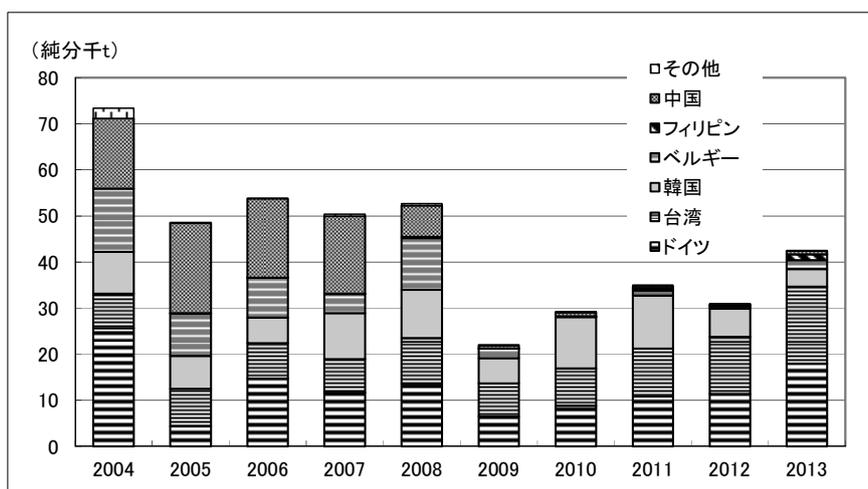


図 2-4 硫酸カリウムの輸入相手国

### 2-3.輸出入価格

カリウムの平均輸出入価格を表2-5、図2-5、図2-6に示す。日本国内に輸入されるカリウムのうち、塩化カリウム、硫酸カリウム、その他カリウム肥料の価格は2008年から2009年にかけて急上昇し、2009年に大幅に下落、2010年以降は比較的安定的に推移している。各種カリウム化合物や肥料の原料となる塩化カリウムについて、日本はその全量を輸入しており、採掘や精製にかかるエネルギーコスト、輸送コストが輸入価格に直接跳ね返ってくる。加えて、世界のカリウム販売(供給契約の締結や輸出)の窓口はCanpotex、BPC、Uralkaliなど限られたメーカーが握っており、価格に関してもこれらメーカーの決定が大きく影響する。主要消費国である中国、インド、ブラジルのように大量にカリウムを購入する国の価格交渉力に比べ日本は供給元に対する価格交渉力が弱く、供給元の提示価格で購入せざるを得ないという事情がある。

輸出価格は増減の幅が大きいですが、もともとの数量が極めて少ないため単年のスポット的な状況の影響を受けやすい。

表 2-5 カリウムの平均輸出入価格

		単位	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	
素材	塩化カリウム	輸入	207.6	243.1	265.8	288.9	531.0	799.9	462.2	506.4	571.6	483.7	85%	
		輸出	1,766.9	1,514.1	1,804.0	1,901.3	2,742.6	3,897.4	3,806.1	3,855.1	4,080.7	2,924.7	72%	
	硫酸カリウム	輸入	295.0	337.1	351.8	372.8	832.7	986.5	574.0	622.9	639.6	627.5	98%	
		輸出	7,526.8	13,963.9	1,623.7	1,388.0	7,219.9	1,783.1	1,289.8	2,461.5	2,479.2	3,088.4	125%	
	水酸化カリウム	輸入	0.4	0.4	0.5	0.5	0.8	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.6	75%
		輸出	1.4	1.5	1.6	1.9	1.9	2.4	2.5	2.8	2.8	2.5	87%	
	カリウム 硝酸塩	輸入	0.5	0.5	0.5	0.6	1.4	1.4	1.1	1.2	1.3	1.2	1.2	94%
		輸出	2.5	2.2	2.0	2.0	2.7	3.2	3.6	2.8	3.2	3.0	95%	
	カリウム炭酸塩	輸入	0.5	0.5	0.7	0.7	1.2	1.3	1.3	1.3	1.2	1.0	85%	
		輸出	0.9	1.4	0.7	1.1	1.4	1.6	1.5	2.1	1.9	2.0	102%	
	その他 カリウム化合物	輸入	23.5	19.9	24.2	19.7	17.2	14.2	20.3	18.3	20.8	16.1	77%	
		輸出	0.4	0.5	0.6	0.7	1.3	2.1	2.2	18.6	16.8	9.2	55%	
製品	その他 カリ肥料	輸入	213.4	241.7	239.8	247.0	355.7	550.0	349.8	410.1	471.3	513.6	109%	
		輸出	471.0	4,314.1	3,885.3	2,499.1	901.5	-	-	1,072.2	7,460.5	1,121.0	15%	
	複合肥料	輸入	334.8	380.1	427.0	454.4	729.9	696.4	577.0	534.8	555.8	621.6	112%	
		輸出	1,189.1	1,233.0	1,356.3	1,524.5	1,618.2	1,507.4	1,321.6	1,353.1	1,434.1	1,491.0	104%	

出典：財務省貿易統計

※輸出入価格は貿易統計の貿易額を財務省による年間平均為替レートにより米ドルベースに換算し、年間平均価格を示した。

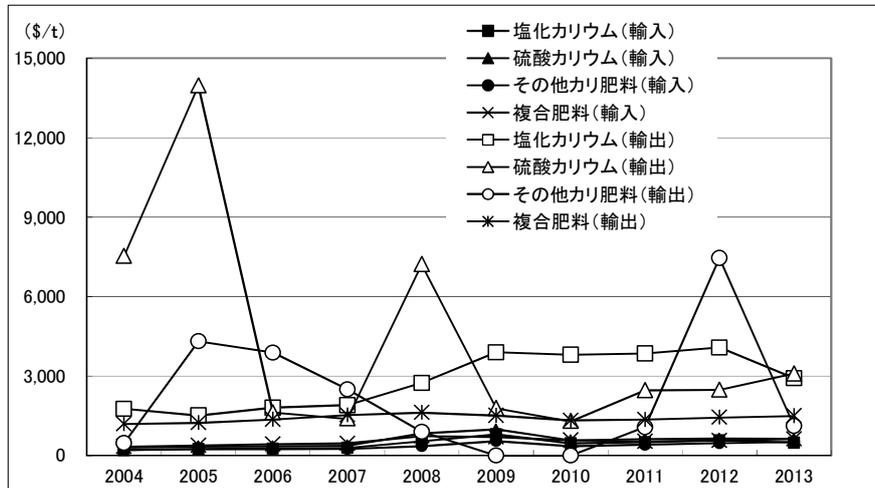


図 2-5 カリウム(塩化・硫酸・その他肥料及び複合肥料)の平均輸出入価格

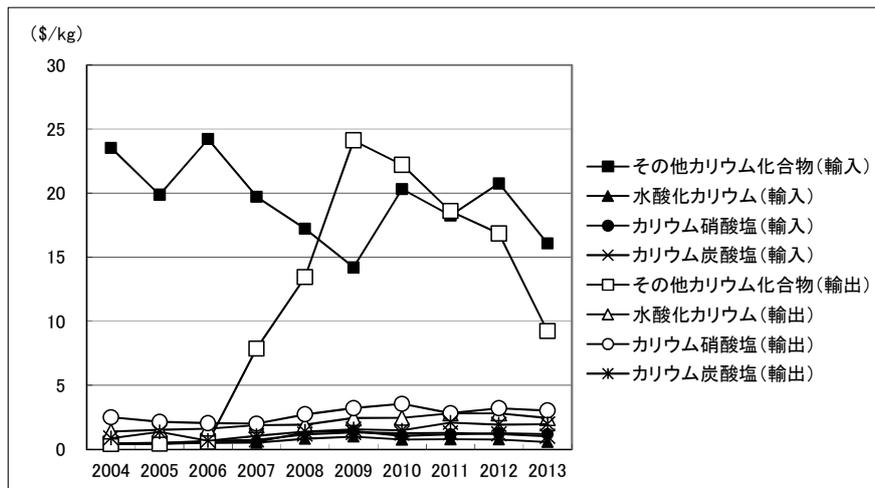


図 2-6 カリウム(その他化合物、水酸化、カリウム硝酸塩、カリウム炭酸塩)の平均輸出入価格

### 3.生産者及び生産品目

日本におけるカリウムの主要生産者は表3の通りである。

表3 主要生産者及び生産品目

企業名	塩化カリウム	水酸化カリウム
旭硝子	輸入	○
日本曹達	輸入	○
東ソー	輸入	○
ダイソー	輸入	○
東亜合成	輸入	○

出典: 矢野経済研究所作成

### 4.リサイクル

国内のカリウムの約99%が肥料として消費されている。肥料として消費されるカリウムはリサイクルが難しいため、国内におけるカリウムのリサイクル率は0%である。

リサイクル率	$= (\text{使用済み製品からのリサイクル量}) / (\text{見掛消費})$
見掛消費	$= (\text{国内生産}) + (\text{素材の輸入}) - (\text{素材の輸出})$

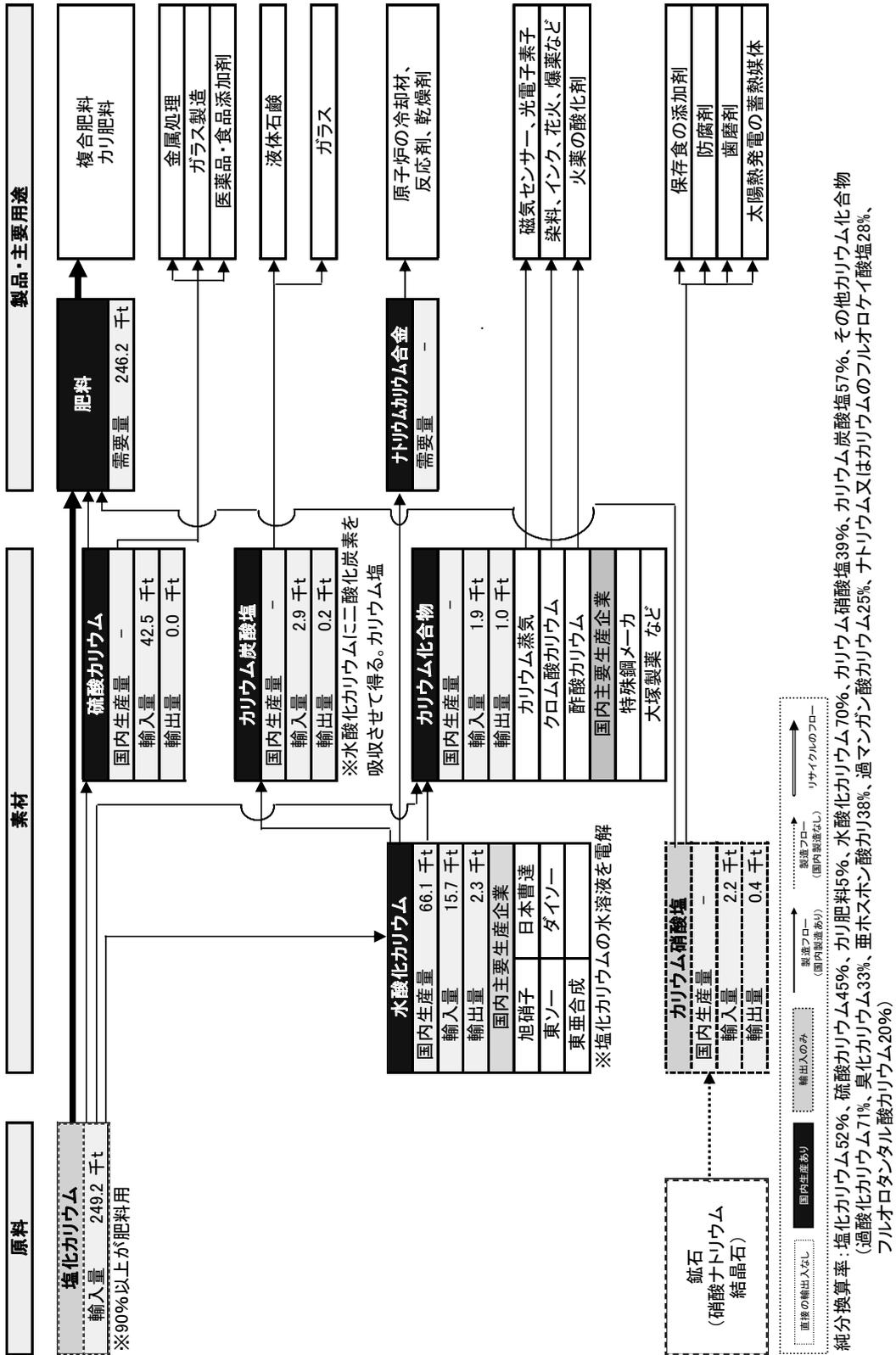
※使用済み製品からのリサイクル量とは、製品から素材に戻る量を示す。

※素材は塩化カリウム、水酸化カリウム、硫酸カリウム、カリウム硝酸塩、カリウム炭酸塩、その他カリウム化合物、製品はカリ肥料の合計値。

※国内発生量には使用済み製品からのリサイクル量を含む。

5. マテリアルフロー

カリウムのマテリアルフロー (2013)



純分換算率: 塩化カリウム52%、硫酸カリウム45%、カリ肥料5%、水酸化カリウム70%、カリウム硝酸塩39%、カリウム炭酸塩57%、その他カリウム化合物 (過酸化カリウム71%、臭化カリウム33%、亜ホスホン酸カリウム25%、過マンガン酸カリウム25%、ナトリウム又はカリウムのフルオロケイ酸塩28%、フルオロタンタル酸カリウム20%)

